



府中かんきょう市民の会

NPO法人 府中かんきょう市民の会会報
 2019年春号 4月10日(水)発行 通巻72号
 発行人 小西 信生(府中市四谷6-19-20)
 TEL 042-405-8524
 編集人 葛西 利武
 ☆題字の樹木イラストは、環境の「緑・大気・水」の三大要素をイメージ

当会から10名参加 変わる「環境教育」全国研究大会in 武蔵台小学校

11月30日に府中市立武蔵台小学校(野澤由美校長)で、第50回 全国小中学校環境教育研究大会(東京大会)、第54回 東京都小中学校環境教育研究発表会が行われた。



主催者の武蔵台小学校 野澤由美校長のご挨拶(平成30年11月30日)



ていた(④写真)。武蔵台の緑豊かな自然・人との関わりを大切にした体験的な学習などを通して昨年度からESDを踏まえた学習の取り組みについて研究を進めていることを初めて知る。生活科・総合的な学習の時間を中心に各教科と連動させた年間カレンダー(各学年ごと)が講演会会場でパネル紹介もされていた。

研究主題は「持続可能な社会づくりのための環境教育の推進 ～環境教育によって育む学力と環境保全意欲～」とされ、環境教育及びESD「持続可能な開発のための教育」(Education for Sustainable Development)のさらなる充実と発展を図ることが目的とのこと。

持続可能な社会の「作り手」となることができるようにするには教師、指導者側の明確なビジョンが欠かせないとし、その実現には、指導する教員自身のパラダイムシフトも不可欠であり、この研究会がそれを可能にするための大会になればとの主催者側の思いとのことであった。

我々が研究大会に参加した理由は…

当会では地域の自然保護・環境保全の実践から、これまで小学校の環境教育に数年間かかわってきた(会報67号～71号で紹介)。地域の自然を地域の子供達に伝えていきたいという思いから、学校の授業にかかわることはとても重要なことだと捉えてきた。現在の学校教育ではどのような考え方で『環境』を捉え、目指すものは何なのか、そのことを学ぶために参加した。

全学年の公開授業が行われる

午前、3学年の公開授業を参観した。総合的な学習の時間で「裏山(国分寺崖線/④写真)の良さ」の良さに気づき、周りに発信することを目標としてESDの要素「『相互性』を養う」(コミュニケーションを行う力、批判的に考える力、他者と協力する態度など)を育てるための学習とのこと。



身近な自然から学んだことを一人ひとりが画用紙にまとめて、それぞれが発表し合いグループごとに内容を深め合っ

全国の事例発表より/横浜市立日枝(ヒエ)小学校のケース

午後から印象に残ったのは、川に棲む生き物と共存できる社会を目指して、今自分たちがやりたいこと「かがやけ! ブルーリバー♡ハッピープロジェクト」～大岡川でつながり合おう大作戦～の実践発表である。

4学年で、身近な川で日常的にごみ(自転車や大型ごみもあり)が流れているのを目の当たりにしている子ども達が、NPO団体と一緒に川のごみ調査を行ない、ポイ捨てされているプラスチックが生き物を蝕んでいることを認知する。

汚すのは大人だと自分事にならないことから、まずは実態を知り、生き物との共存の視点へと転換させる授業を目指したいとの意気込みが話された。魅力ある川へと子ども達の自発性を引き出す工夫がされていた。



川に入ってゴミ調査をする4学年の児童たち。写真提供は日枝小学校

環境課題を認識し、さらなる実践へ

国連が2014年に承認した「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」(ESD)を背景に、現在、日本の文部科学省が2020年の新指導要領に向けてその取り組みを始め、学習手法の研究が刻々と進められているようだ。

我々が第五小3学年にかかわった総合的な学習の中で環境学習に取り組む意味も理解できた。日頃の活動から子ども達を含め地域の方々と共に大きな視野を持って実践を継続することの必要性をあらためて学ぶことができ、チームで研究大会に参加したことはとても有意義な機会となった。(西府崖線チームリーダー/浅田多津子)

米づくり体験 「田んぼの学校」2019 生徒募集

「田んぼの学校」は府中市民に定着し14回目を迎えました。今年も昨年同様、開催回数は3回①田植え②稲刈り③脱こく・モミすり・修了式。バケツ稲観察。今年4月11日(木)の「広報ふちゆう」で定員40名の募集です。締切は26日(金)です。



田んぼの学校/田植えの光景

田んぼは四季おりおりいろいろな表情を見せます。稲刈りの後は春まで寒々とした風景が広がります。

4月になれば赤紫色の可憐なレンゲが一斉に咲く??? レンゲは稲の生長に必要な窒素を多く含んでおり、田んぼの土を肥やす効果(緑肥効果)があり、昔はどこも田んぼも

レンゲ田が広がっていましたが今ではほとんど見られなくなりました。府中市では南町の新田川公園近くの田んぼ等では今でもレンゲが見られます。

2015年4月25日撮影



押立町1丁目の田んぼに咲くレンゲ

5月に入ると一斉に水が入り、ヤゴ、アメンボ、ホウネンエビ、ヒル等にぎやかになります。カモが飛来し、優雅に水面を泳ぎ始めるなど目を楽しませてくれます。

田植え、生長、秋になると金色の稲穂が揺れ、実った稲穂に群がるスズメの群れ。季節ごとに自然のいとなみ、美しい風景を繰り広げ、心を和ませてくれるそんな田んぼの1年が始まろうとしています。皆さんの積極的な参加をお待ちしています。(柿本 正夫)

募集要項

△募集数: 40名(超える時は抽せん)

△参加費: 1,000円

△対象: 小学生~大人(1~3年生保護者同伴)

△場所: 東京農工大学 本町農場(本町3-7)

分倍河原駅徒歩5分

△日数: 全3日 毎回9:00~12:00

※詳細は「広報 ふちゆう」4月11日号でお知らせします。

	2019年	テーマ	観察・調べること
1回	5月26日	開校式・田植え	泥の感触、植える苗の深さ
2回	9月22日	稲刈り・ハサかけ	1株の分けつ数、モミ数
3回	10月6日	脱こく・モミすり・修了式	玄米ができるまでの手順

☆5月~10月/バケツ稲(稲の成長を自宅で観察)

現在検討中

JAとの援農ボランティア事業の協働

昨年(2018年)11月、市民協働まつりで、JA(マインズ農協)の方から、援農ボランティアについて声をかけていただき、現在双方で検討中です。

援農ボランティアは当会が行なっている事業の一つですが、元々は府中市が行なっている「援農ボランティアのあっせん」を、受け入れる農家と市民ボランティア双方にとって長続きできるように運用を整えて、2004年から継続して行なっているものです。当会で現在援農に参加している会員は24人、伺っている農家は2軒です。

現在府中市では農家のボランティアの要望の有無を毎年聞いた後、広報ふちゆうで市民への告知を行ない、市民から参加の要望があれば、「あっせん」の形で農家を直接紹介する形をとっており、JAは現在参加していません。

現状の課題

現在の府中市の方法ですと、あっせんの前に農家の手伝いをするための事前研修はなく、農家に行っても何をするか、いつ、どういう風にするかのルール・基準は特になく、農家と市民の相対の相談で決めているのが現状のようです。

そのためか、長続きする市民ボランティアもいますが、風邪や私用などなにかの都合で欠席すると、次回以降参加しにくくなって欠員になるケースも多いようです。

本来仕事をするとき、その仕事そのものが楽しくて面白け



JAマインズ本店/西府支店(分梅町3丁目)

ればいいのですが、その他の条件や、人間関係も、仕事を続けていくために大きな要素となる、とされています。

援農ボランティアはそもそも労働ですらありませんから、いわゆる「仕事をする」とは別の作業環境を必要としています。

今後の方向

今後、JAと当会、双方で運用を詰め、農家と市民にとって参加しやすく、続けやすい仕組みを検討していきたいと考えています。

ただし、現在援農に伺っている農家と当会の会員の関係を変えたりすることではなく、色々な参加する仕組みを作っていくことを検討していきます。(小西 信生)

上述したように現在話し合い中ですので、状況によっては次号の夏号にも掲載いたします。(編集部)

ハケは野鳥たちの
オアシス

西府崖線 野鳥観察記

日時	2019年1月19日(土) 9:30~11:30
天候	快晴 ☀️☀️☀️
場所	あずまや~わき水~大山道~ハケ上~ わき水階段上~西府文化センター
参加者	11人(会員6人 一般5人)



大山道近くで観察。見上げる参加者



ツバキの甘い蜜を求めてメジロが2羽。中央と左下。中央は少し見づらいため、白い矢印をつける

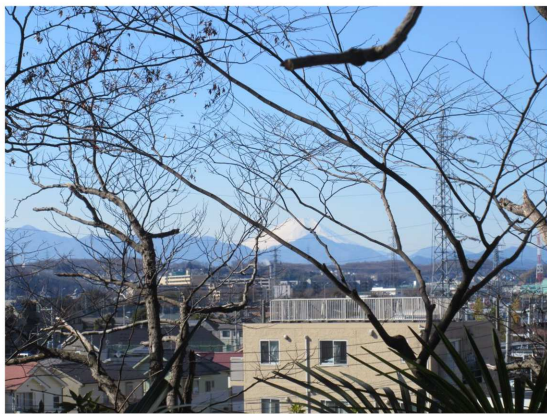
風もなく雲一つない青空が広がる絶好の探鳥日和でした。参加者があずまやに集合し始めた頃からヒヨドリ、オナガの賑やかな声と共に、オナガの優美な姿が木々の間から見え隠れしていました。

ウグイスの地鳴きを聞きながらあずまやを後に。今年は市川用水、崖線沿いの用水共に水のない異常な状態です。カラカラに乾燥した落ち葉を踏みながらわき水近くの池の前で足をとめるとツバキにメジロが次々と我々の眼を気にすることなく甘い蜜を求めてやってきました。アイリングに黄緑色のボディ、何とも愛らしい姿に全員笑顔です。

わき水から大山道への間が常日頃一番鳥の姿が観察できる所ですが、本日は声のみのシロハラ、モズ、アオジたちの登場でした。

大山道を上りハケ上に出ましたが、全く鳥の姿が確認出来ず上空をアオサギが飛び去るのみ。

昨年5月にイヌザクラにアオゲラが繁殖行動のため開けたと思われる穴(直径約5cm)を見た後文化センターまでの道のりもメジロが数羽みられたのみで、探鳥会は終わりました。(田中香代子)



ハケ上
木々の間からの日本最高峰 秀麗富士



④アオゲラが開けたと思われる直径約5cmの穴

=2018年5月2日撮影

⑤アオゲラ

=2018年4月29日撮影



<観察できた野鳥> 12種

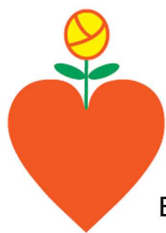
キジバト、アオサギ、モズ、オナガ、ハシブトガラス、メジロ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、シロハラ、アオジ

当会のマーク確定



A

大地から樹が伸びて、雲に変化して雨を降らせる。環境の「みどり、大気、水」の三大要素をイメージ。雨はまた大地に戻って、みどりを育てる。



B

ハートはもちろん心。会員の思い、心が芽を吹き20年経って、ようやく蕾にまで成長。そのことをシンボライズ。



C

府中の”F”を樹木に見立てたデザイン。ブランコは公園をイメージし「街づくりと環境を考える府中のグループ」というコンセプト。

左のマークA、B、Cの制作者はいずれも当会の内田久子氏である。この中から、当会のマークは1月定例会で「A」に決まった。

早速、今回の通巻72号題字にも活用させていただいた。簡潔な表現で、「環境」をイメージしやすい。

また、題字だけではなく、本文中のイラスト・カットにも活用できる。さらに今後は、BかCを「ハケ・用水・わき水通信」の題字にも活用したい。(葛西利武)

カッパ池公園化

西府崖線保全活動

2019年度の三大テーマ。①カッパ池公園化(府中市に提案済み)。市・企業・NPO協働事業②樹木名札総取替え(70本)③カラー図版「ハケって、なに？」改訂版作成(A3/巻三折)。



写真⑥/2013年6月29日(土)の第3回「わき水まつり講演会(本宿公会堂)」で講師の加藤正之氏(一級建築士 右端)が提案。演題は「カッパ池の再生と環境保全」。現在のカッパ池と隣接する(株)NEC所有の空き地を一体化して「カッパ公園(仮称)」へと。加藤氏はその後、2016年4月13日(享年69)に病に倒れて鬼籍に入る。写真⑥⑦/隣接する府中市日新町1-5-2の(株)NECの空き地(約400㎡)とカッパ池(カッパ像あり)。

2019年度活動予定

- 1.春の清掃活動と昆虫等生態系調査 5/18(土)(☂19日) 担当/葛西利武
- 2.市民花壇(春) 苗等支給6/14頃 担当/鈴木潔
- 3.第五小学校・3年生総合学習 夏と秋 担当/小西信生
- 4.わき水まつりパート1(講演会) 7/7(日) 13:30~15:30 担当/葛西利武 内容:高家博成執筆本の講演会(仮題)親子で学ぶ昆虫のふしぎ 講師:高家博成

- 5.わき水まつりパート2(野外の部) 魚・昆虫生態系調査 7/20(土)21(日) 担当/浅田多津子
テーマ:在来種と外来種について~外来種「ザリガニ」生物多様性について学ぶ~ 講師:大平充 近藤雅人
- 6.キツネノカミソリを観る会→開花のお知らせポスター 担当/田中香代子
- 7.秋の清掃活動 昆虫生態系調査 11/9(土)(☂10日) 担当/葛西利武
- 8.歴史・自然遺産めぐり 11/3(日)文化の日(☂4日) 担当/葛西利武 案内人/小西信生
※西府崖線の自然と甲州古道・鎌倉古道を歩く
- 9.市民花壇(秋) 苗等支給11/22頃 担当/鈴木潔
- 10.落ち葉掃き 落ち葉銀行登録済み「西府町緑地」作業は11月、12月の各2回程度 担当/設楽厚子
- 11.樹木の名札管理(兼巣箱清掃) 12/7(土)(☂8日) ◎樹木名札の総取替え(70本) 担当/葛西利武
その後、ハケ現況にそって「ハケって、なに？」改定
- 12.野鳥観察会と野鳥生態系調査 2020年1月18日(土)(☂19日) 担当/田中香代子



- 13.西府町緑地・花壇 随時 担当/鈴木潔 田中香代子
- 14.毎月湧水量調査 ※6月と12月は水質調査も兼ねる (葛西 利武)

太陽光パネル2,478枚設置

大和エネルギー(株) 府中市で売電事業

大和ハウス工業(株)(東京本店/建築事業部)の施設見学会に参加した。日時は2月13日(水)10:00~11:00。

場所は府中市四谷5丁目の「DPL(ディー プロジェクト ロジスティクス)国立府中」。その5階建「物流施設」屋上には、太陽光パネルが2,478枚設置。パネル1枚の最大出力は300W。グループ会社の大和エネルギー(株)が、2月28日から府中市で売電事業を開始。その概要をご報告する。

なお、施設とその周辺には様々な工夫がなされている。災害発生時の緊急避難所。近隣住民のための提供公園。施設周辺への緑創出(樹木植栽3,356本)。歩行者の安全確保のための交通誘導員2名配置等である。



物流倉庫はテナントに引き渡す中に入れないので、その前の見学。見学した5階はバレーコートボールコート1面(600㎡)に換算すると、20面以上の広さ

太陽光事業の概要 ※後日、大和ハウス工業(株)に概要を問合わせた

- 発電所名:DREAM Solar 国立府中 屋上でのパネル取付け作業
- 容量:DC 743.4kW AC 500kW
- 年間発電量:712,000kWh
- FIT単価:21円/kWh ※フィードインタリフ/固定価格買取制度
- 売電開始時期:2019年2月28日
- パネル枚数:2,478枚
- パネル出力:多結晶300W
- メーカー:パネル/カナディアンソーラージャパン PCS(パワーコンディショナー)/ダイヘン ※直流を交流に変換する装置



「DPL国立府中」工事中の航空写真。屋上に太陽光パネルが設置敷地面積34,537.46㎡(10,447坪) ※写真提供は大和ハウス工業(株)

(葛西 利武)

賛助会員の参加で盛り上がった望年会

今年度の府中かんきょう市民の会で特筆すべきことの一つは、何といても賛助会員が大幅に増えたことである。その方々は援農ボランティアとして活躍されてこられたが、リーダーの竹田勇さんの声かけで賛助会員として当会に加わることになった。

2018年12月12日(水)、寿町三丁目公会堂での定例会終了後、「望年会」も同場所にて15:00～17:00まで開催された。望年会には、その賛助会員の中から2人の参加があり、全体で21名の参加となり、



大いに盛り上がった。左下の写真は、そのワンショット。なお、当会は、望年会の表記を希望の「望」としている。

望年会は、会員同士の親睦を深めることが最大の目的である。会員は、それぞれ関心ある事業に参加している。大気や水質などの環境測定、西府崖線や用水の保全、田んぼの学校、援農などの事業である。けれども月に1回開催される定例会以外には会員同士が顔を合わせる機会は少ない。望年会はその貴重な機会なのだ。

オークションあり

自宅で眠る品々を持ち寄るオークションは当会の貴重な資金源となっている。

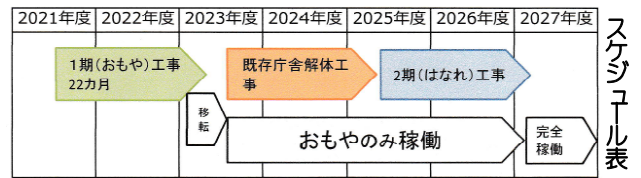
ちなみに、今回のオークション売り上げは10,510円だった。当会は、会員・賛助会員のさまざまな活動によって支えられている。(伊藤 久雄)

市庁舎建替えが始まっています



鳥瞰(ちようか)イメージパース
(敷地南西側から)

スケジュール



現在は既に買収済みの隣接民家を取り壊し工事中で、今後遺跡調査を行なった後、大きな建設計画の変更が不要であれば、2021年度中に建設工事を開始し、2027年度初めには工事完了し全庁舎で業務を行なう計画になっています。(小西 信生)

1954年(昭和29)に発足した府中市は、今年市政施行65周年を迎えます。宮西町の現市庁舎は、1959年(昭和34)に西庁舎が完成し、1970年(昭和45)東庁舎、1991年(平成3)北庁舎と増築してきた施設です。

最も古い西庁舎は、今年で60年を迎え、西、東庁舎共に1981年(昭和56)の耐震基準の見直し前に作った建物のために、耐震機能は不十分であることは調査済みで、いざというときのための態勢は十分ではないとされています。

新庁舎に必要な機能

2011年(平成23)3月11日の東日本大震災では、府中は震度5弱だったこともあり、倒壊はしませんでした。建物の被害は発生しました。市内の小中学校や、文化センターなどの公共施設はほぼ耐震機能の強化が終わり、早期の建替えが期待されるようです。

新しい庁舎には耐震機能は当然必要ですが、新しいニーズに対応した機能を取り込むとともに、できるだけ長い期間建替える必要がないようにすることも望まれます。

現在は十分とはいえないシステム化対応、バリアフリー対応、省エネ対応、個人情報保護機能などもありますし、来庁する市民との相談機能や打合せ機能、図書館やオープンスペースなどでの公共行政情報の提供機能の拡充も望まれるようです。

写真2景

平成30年9月27日撮影



(祝) 27日(木) ちちゅう元気「番賞」を受賞。右は表彰状を読み上げる高野市長。当会では横山氏、竹田氏、設楽氏に続いて4人目

平成31年3月25日撮影



西府町団地の方々が市に寄付をし、27年前(平成4)に開設された「花の公園」。それ以来、自治会有志が管理をしてきた「花の公園」が今年も満開

祝 記念式典

府中かんきょう市民の会 20周年を迎えて

府中かんきょう市民の会(以後、当会)の発足は、1999年(平成11)4月6日で、今年2019年(平成31)で20周年を迎えます。20周年を記念して、当会は以下の事業を行なう予定です。

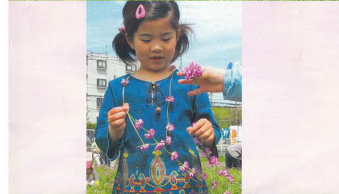
- 1. 20周年記念式典の開催
- 2. 20周年記念誌の発行
- 3. 当会マークの制定

20周年記念式典は2019年5月12日(日)13時～16時30分、府中駅南口「ル・シーニュ」の市民活動センター6階第一会議室で行ないます。多くの会員のご参加をお待ちしております。



① 当会のマーク。大地から樹が伸びて、雲に変化して雨が降らせる。環境の「みどり、大気、水」の3要素をイメージ。雨はまた大地に戻って、みどりを育てる。

② 10周年に発行の記念誌表紙。A4判282頁



当会の様々な活動

当会は会発足の端緒ともなった自治体への提言活動のように、現在まで継続しているものもありますし、2001年から2015年まで続けたものの、諸般の事情でやめざるをえなくなった、押立町の「レンゲまつり」がありました。

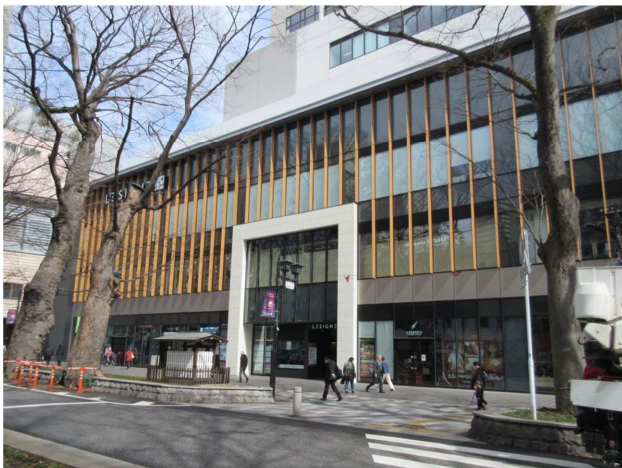
2004年から続いている「援農ボランティア活動」、2004年からJR西府駅開設と周辺の整備に伴って、自然の保全が懸念されて始まった「西府崖線保全活動」、2006年から2011年の東日本大震災では放射能汚染が懸念されたため中止したものの、その後現在まで継続している「田んぼの学校」など多くの事業が、現在まで展開しています。

この「会報」も、第72号で、2001年の創刊号から四半期ごとに欠けることなく、発行しています。

近年は、会員の高齢化や高齢化による会員退会による活動への影響もありますが、20周年を迎えた後も援農ボランティア活動の推進や、環境学習の対象校の増加など、たのしく、おもしろく、やりがいのある活動も増やすなど、今後の活動をよりよいものに改善していこうとしています。

祝 20周年記念式典<式次第>

- ① 記念式典 13:30～13:50
- ② 記念講演 14:00～15:00
演題/『私たちの暮らしと水』
講師/小倉 紀雄(東京農工大学名誉教授)
※当会顧問
- ③ 懇親会 15:20～16:30



ル・シーニュ/府中駅南口再開発に伴う15階建の複合施設
2017年7月完成。手前の道路はけやき並木通り

20周年記念誌は、当会の会報を中心に11年目から20年目までをまとめたもので、360頁強の記念誌で、今回はカラーで発行します。当会のマークは、これまで会報や名札、名刺に正式には統一したマークがなかったこともあり、統一したマークを会員の方にデザインしていただきました。いずれも右上をご覧ください。

環境保全とまちづくりを「協働」で行なう

当会は、その名前のおり、府中の環境保全とまちづくりを行政、事業者、市民・市民団体とともに協働で行なっていくことをめざしている団体です。

20周年を迎える現状をみると、会員の新規加入はあるものの、会員の高齢化は20年分それなりに進んでおり、平均年齢は71歳を超えています。今後、多くの新しい会員が参加いただけること、参加のために当会の活動が、魅力あるものであることが重要になります。



田んぼの学校 稲刈りハサかけ

ボランティアには、「たのしさとおもしろさ」が必要

自主的なボランティアでの活動を基本とする以上、たのしくなければ、いくら活動内容がいいものでも自然に活動は先ぼそりになっていくことはなかなか防げるものではありません。今後もより多くの会員の方々が、お互いにいい関係を維持しながら、活動を続けられることも期待されることです。
(小西 信生)